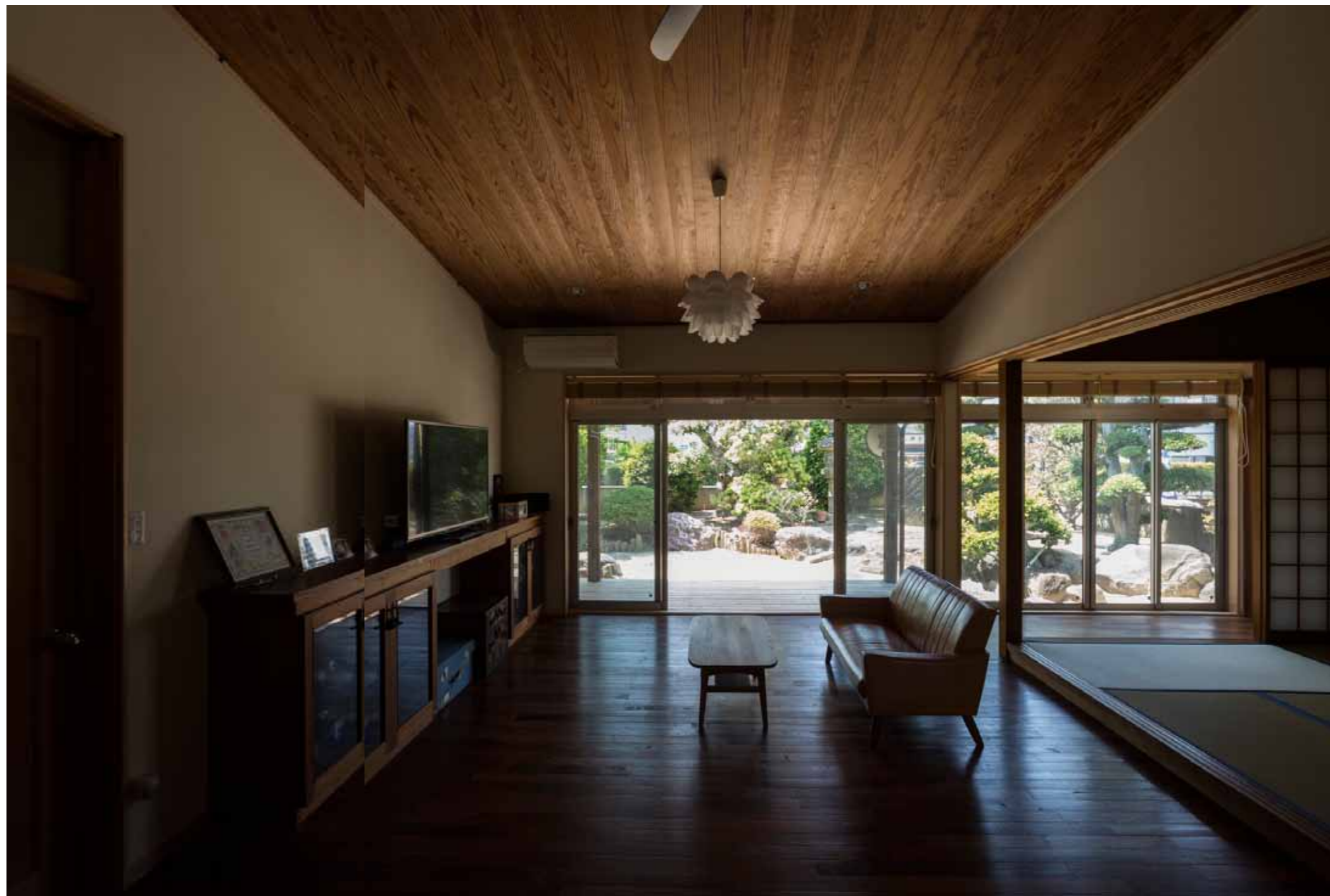




右/リビング。以前は応接室として客を迎えていた空間を家族団らんの場に。右手に和室を配したつくりは変えていない。左/デッキはリフォームを経て生まれた。軒が出ているので雨の日も楽しく過ごせる。洗濯物を干すことも。下/庭。お父さんが自ら植えたマキやヤマモモの緑が心を和ませる。



「4年前に結婚したんですが、これを機に一人で暮らしていた父と同居しようという話が出まして。でも、父が木にこだわって建てた家ですし、本体はまだしっかりしていました。そこで、壊すのではなく古くなくて生活しづらい部分に手を入れ、私たちが移ってくることにしたんです」

では、リフォームをどこにお願いするか。この家を手がけた腕のいい大工さんはすでに廃業している。悩んでいた矢先、小林建のチラシを見つけて出かけたところ、木がふんだんに使われ、お父さんが手塩にかけた住まいになじむと感じられた。予算が手頃なのもうれしい。さらに、長く住むなら大手ハウスメーカーより土地に根を下ろした工務店のほうが付き合やすく親身になってくれるだろうと、同社に決めたそうだ。

打ち合わせの際には、古い材でも残せるものはできるだけ残し、かつ新しく使う材も自然素材にこだわりたいと伝えた。1歳

もとの家を壊さずリフォームしよう

Fさん一家の住まいは気候温暖な蒲郡市内の住宅地にゆったりと建つ。新築でなく約40年前の家を改修・増築し、二世帯住宅として甦らせた。ご主人が次のように述懐する。

愛知県 小林建 F邸

世代を超えて住み継ぐ のびやかな木の住まい

家に対する父の思いを継承したい。息子夫妻の決意を受けとめた地元の工務店の手で、築40年の住まいは快適な二世帯住宅へと生まれ変わった。歳月を経た建物に増築部分がしっくりなじみ、4人家族は仲良く暮らしを営む。

写真=川辺明伸 文=角丸泰子



上右/和室から見たリビング。材は当初のもので床はカリン、天井はなんとボウリング場のレーンに使われた長尺のベイマツという。上左/ダイニング・キッチン。リフォームに際し天井板を剥がしたら立派な梁があったのでそのまま見せることに。下右/和室の建具は大きなフシを生かした板戸。下左/和室は仏間を兼ねる。建具を閉めると別室に。



「とても仲のいいご一家なんです。もとの
お住まいを大事にという思いは共通してい
たので、打ち合わせもスムーズでした」と
小林直人社長。小林住建は新築ばかりカリ
フォームにも力を入れている。とくに増築
は昔の建物に新しい部分をつなげるのが重
要なポイントだが、これはプレカットでは
難しく、大工の手仕事で行わないときちつ
と仕上がらない。まだ現役の先代が宮大工
という同社の技はそんな現場でも力を発揮
したといえよう。親世代の思いが子世代に
伝わったうえで、現代の生活に合う家をつ
くることがリフォームの面白さ——社長の
言葉に力がこもる。

大工の手わざが現場で発揮された

を迎えたばかりの長男を育てるための環境
を第一に考えた、夫妻は口をそろえる。
全体のプランはほとんど変えず、部屋の
配置も以前のまま。一方で、お父さんの居
室を増築した。こちらの部屋には、木を愛
するお父さんのリクエストに応じて大きな
太鼓張りの梁を2本入れたほか、厚みがあ
り足触りのやわらかな地元・三河産の杉材
を床に張っている。キッチンや水まわりは
別に設けず二世帯で共用。食事をともにす
るなど頻繁に行き来されていることがうか
がえる。



右・下/玄関まわり。北山杉や石灯籠が趣を添える。左上/庭側より家を見る。平屋でゆったりした雰囲気。左下/主寝室からも庭が眺められる。



下/前列はFさん一家、後列は小林社長。



建築データ

所在地：愛知県蒲郡市
 家族構成：夫婦 + 子ども1人 + 祖父
 敷地面積：550㎡
 延床面積：合計 = 189㎡ (既設部分 133㎡ 増築部分 56㎡)
 竣工：2015年6月 (工期 2015年1月～2015年6月)
 設計：(株)小林住建 ☎0495-72-0327
 施工：(株)小林住建
 構造形式：木造

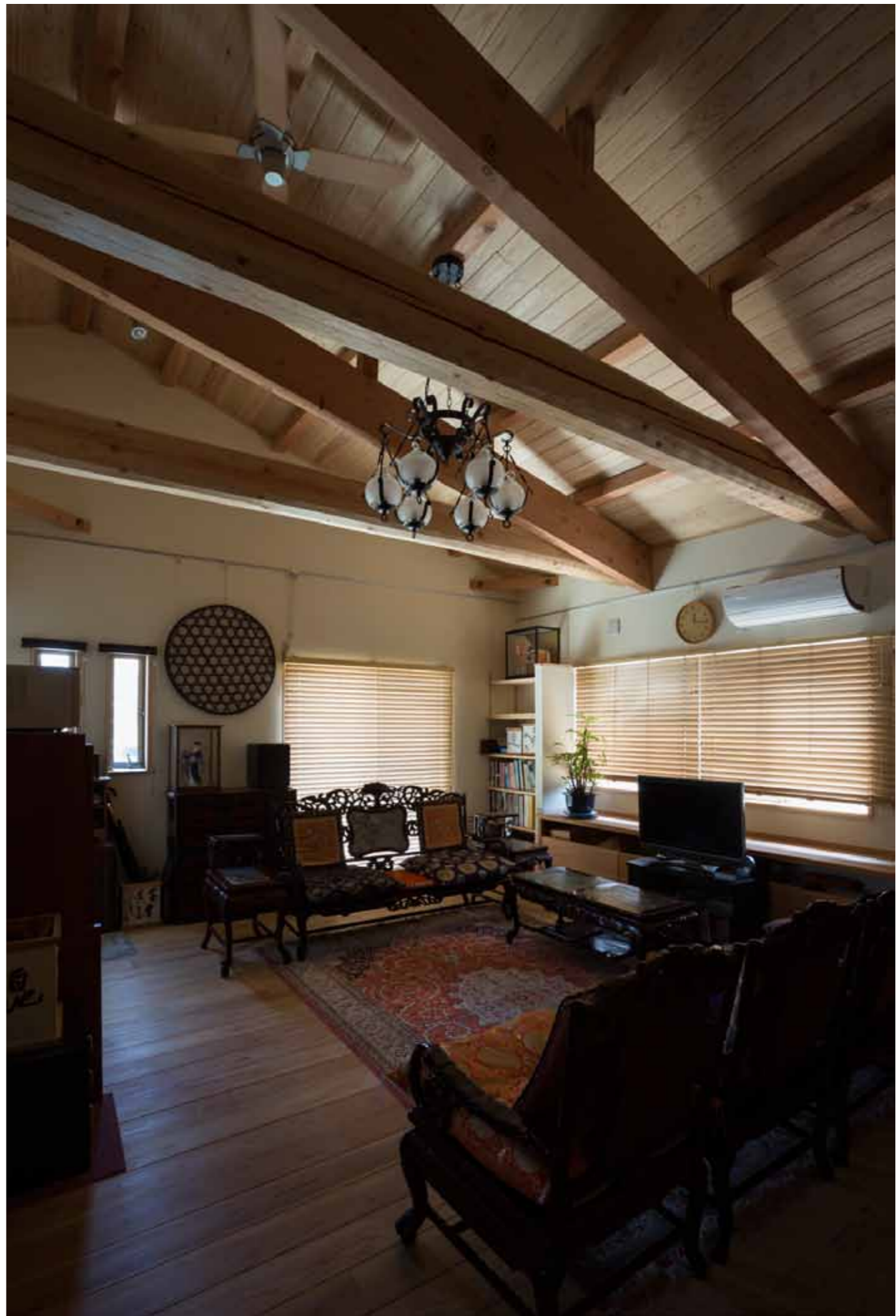
主な外部仕上げ：
 屋根＝瓦葺き
 軒天井＝杉
 外壁＝ガルバリウム鋼板 一部杉板
 主な内部仕上げ：
 天井＝杉
 壁＝漆喰
 床＝チーク、杉

間取りは以前とほぼ同じながら、こまごまとした改修が随所に施されている。たとえばシステムキッチンや浴室暖房を入れたのでぐんと快適になった。また、リビングの南側にはウッドデッキを設置。庭へ直接出られるだけでなく、夏はそこにビニールプールを置いて長男が水遊びをしたり、楽しい場所が生まれた。

この家に移って1年余り。4人家族はのびのびと日々を送る。長男は毎朝、大好きなおじいちゃんの一部屋に向かう。「遊んでもらってる間に掃除ができて、すごく助かっています」と奥さんがにつこり。暮らしていて気分は前と変わったかご主人に聞いたら、うーんと首をひねった。

「昔の家よりずっと明るく居心地もいいのに違和感がないんです。小林さんたちが細かく気を配りながら作業してくださったからでしょう。ていねいなお仕事に、父も私たち夫婦もとても満足しています」(ご主人)

お父さんは骨董収集が趣味で目になかった照明器具や日用品が家のそここに。父の居室はもちろんどの部屋にも古い家具などを置いて楽しんでいます」と奥さん。



お父さんの部屋。太鼓梁のほか隠す予定だった上り梁もお父さんの希望で現しにした。「小林さんの木の使い方はさすが」とご主人。無垢材にアンティークの家具調度が映える。